

ふるさと発見！（小・中学生向け）

がくふ とよおか学府

〈 地区・世帯数・人口 〉 令和元年10月現在

北地区・北小学校区(旧野部村)	1,464 世帯	3,920 人
東地区・北小学校区(旧敷地村)	417 世帯	1,162 人
南地区・南小学校区(旧広瀬村)	2,003 世帯	5,946 人
合計	3,884 世帯	11,028 人



「とよおか学府」について詳しく調べるには『豊岡村史通史編』『豊岡村史資料編』『豊岡村百話』

学府の名前の「とよおか」は、昭和30年に3村が合併した時、中学生から募集した中から県知事が決定した村の名前です。



南アルプスから連なる山地（磐田市で一番高いのは本宮山の北方で高さ534m）と磐田原台地と天竜川・敷地川沿いの平野という3つの異なる地形を持つとよおか学府は、それぞれの地形の特徴に合わせた産業を育んできました。また、遠州北部（信州に接する山間部）と遠州南部（平野部）の接点になるため、古くから物や人・文化の中継地、要として重視されてきました。とよおか学府について調べてみましょう。

●古代から続く歴史→① 《日本で銅鐸が出土する一番東の端》

西の谷遺跡から出土した銅鐸は弥生時代のものです。三つのうちの一つは東京国立博物館に所蔵されています。岩室廃寺跡は、奈良時代から室町時代にかけて建てられた大きなお寺の跡と考えられます。戦国時代には、この地域で、今川氏・武田氏・徳川氏などの争いがあったため、城や砦が多く築かれました。

★豊岡の歴史や遺跡について調べるには

- 『いわたふるさと散歩 磐田文化財マップ豊岡編』（全館）
- 『豊岡物語 増刊号』（中央・竜洋・豊岡）

●盛んな農業→② 《元気むらには採れたての野菜がいっぱい》

天竜川平野には水田や海老芋・白ねぎ・シソ・中国野菜などの畑が広がり、台地ではお茶や柿が作られています。

★豊岡の農業について調べるには

- 『わたしたちの豊岡村 改訂版』（豊岡・竜洋）
- 磐田市立図書館（小・中学生向け）資料案内「磐田を知りたい！調べたい！ 磐田の特産物」（全館）
- 「とよおか採れたて元気むら」<http://www.toyooka-genkimura.co.jp/>

●獅子の背から海が見える→③

山肌の岩の形が獅子の横顔に似ているため「獅子ヶ鼻公園」と名付けられました。岩の上から遠州灘が見えます。

★獅子ヶ鼻公園について調べるには

- 『磐田市トラベルランク』（全館）

●お盆の夜は民俗文化財→④

「遠州大念仏」は念仏組が初盆の家を回るものです。市指定無形民俗文化財です。7つの地区にあります。

★遠州大念仏や子供念仏について調べるには

- 『豊岡地区伝承の遠州大念仏』（全館）
- DVD『豊岡地区伝承の遠州大念仏』（全館）
- 磐田市立図書館（小・中学生向け）資料案内「磐田を知りたい！調べたい！磐田の大念仏」（全館）

●ヘリコプターの研究もした松下博士→⑤

国語学者の松下大三郎（1878-1935）は、物理学への関心も高かったそうです。その才能は、万葉集などの古典から選んだ和歌の検索ができる『国歌大観』の構想に役立ったのではとされています。

★豊岡の発展に尽くした人々について調べるには

- 『松下博士の業績をたたえる』（全館）
- 『わたしたちの磐田』（全館）
- 磐田市立図書館HP「磐田の著名人」<http://www.lib-iwata-shizuoka.jp/hakken/>

●交通網→⑥と工場の進出→⑦ 《2020年に新しいスマートインターチェンジができる》

鉄道は、1928（昭和3）年に光明電鉄〔後に廃線〕が、1940（昭和15）年に二俣線〔後の天竜浜名湖鉄道〕が開通しました。道路は、1970（昭和45）年に浜北大橋ができ、2012（平成24）年には新東名高速道路が開通しました。道路の整備により、楽器工場や金属工場・自動車部品工場など、大きな工場が建てられました。

★豊岡の交通や工場について調べるには

- 『広報とよおか縮刷版200号記念』（豊岡）
- 『わたしたちの豊岡』（豊岡）
- 『わたしたちの磐田』（全館）
- 『豊岡村村勢要覧2004』『豊岡村村勢要覧1998』（豊岡）
- 『いわた産業振興フェア』（全館）